



「知識を中途半端にしたくないので、時間があれば他の農家に出向き、情報収集しています。農業は、勉強すればするほど面白い」。今では近所の農家から農地を預かり、ブドウだけでなく柿、桃などの果樹のほか、稲や畑作を手掛けます。

### 先輩農家

「知識を中途半端にしたくないので、時間があれば他の農家に出向き、情報収集しています。農業は、勉強すればするほど面白い」。今では近所の農家から農地を預かり、ブドウだけでなく柿、桃などの果樹のほか、稲や畑作を手掛けます。

### 中途半端にしない

「知識を中途半端にしたくないので、時間があれば他の農家に出向き、情報収集しています。農業は、勉強すればするほど面白い」。今では近所の農家から農地を預かり、ブドウだけでなく柿、桃などの果樹のほか、稲や畑作を手掛けます。

「わたしの農地は、子どもの頃から慣れ親しんだ赤土。手を加えるほど良い土になるのが面白く、土の魅力に引き込まれています。会社員時代は同じ毎日だったけど、農業は毎日が違うので、新しいことに挑戦できます。これが農業の魅力。型にはまった生活より、自由でいられるのが、自分には合っているかもしれないですね」と笑顔で語りました。

### 違う毎日が楽しい

「わたしの農地は、子どもの頃から慣れ親しんだ赤土。手を加えるほど良い土になるのが面白く、土の魅力に引き込まれています。会社員時代は同じ毎日だったけど、農業は毎日が違うので、新しいことに挑戦できます。これが農業の魅力。型にはまった生活より、自由でいられるのが、自分には合っているかもしれないですね」と笑顔で語りました。



人とのつながりが、  
環境を変え、自分を変えた

赤松英雄さん (43歳) 高野山西

### 農業は面白い

8月中旬。小高い丘にある、赤松さんの農園では、大粒のブドウが収穫時期を迎えています。「近所の先輩農家が背中を押してくれたから」とブドウ農家になるきっかけを話す赤松さん。

「大学を卒業後、製造会社に勤務しましたが、会社では出張と残業が続き、体調を崩しがちになり退職。1年間、パート勤務しながら、実家で一人農業を続ける母親を手伝って過ごしました。母親は継がせる気がなかったけど、いろんな先輩農家と関わるうちに、農業が面白いと感じ、9年前にブドウ農家になると決めました」。

### 広がる視野

「ブドウ栽培と関係がない畜産農家の作業を手伝い、こんな世界もあるんだと、栽培に役立つヒントを得ることもあります。会社員時代は、製造業の世界の中でしか交流がなく、業界以外の人とは関わりませんでした。でも農業は、生産、市場、物流など関わりが広く、農産物の品

## 若い農家を引っ張る存在になってほしい

自営業の傍ら、父親が手掛けていた稲作とブドウ栽培の後を継ぎました。赤松君と出会ったのは、ブドウ部会に参加した時です。30代の入会者は珍しく、若くて熱心な印象を受けました。部会は現在38人。今では30代、40代の新規就農者が増え、県外からの移住者もいます。

わたしが赤松君と同じ複合型農家だったこともあり「今、何の作業に取り組んでいますか」と聞いてきたことを覚えています。忙しい時期が重なるので、作業時間の配分を知りたかったのだと思います。

赤松君は最初ブドウ専門でしたが、先輩農家に聞きながらブドウ以外も手掛けてきました。知識と経験を生かしながら、若い人たちを引っ張る存在になって欲しいです。



晴れの国岡山 農業協同組合 津山ぶどう部会 部長  
森山真一さん (上横野)

## 同じ子育て世代

### 気さくに話ができる貴重な仲間

赤松さんは新規就農した翌年、協議会に入会しました。協議会では、わたしの家の梨園で、梨の裂果とカラス害の調査をしていました。当時出産を控え、代わりの発表者を探していた時、快く引き受けてくれたのが赤松さんです。入会したばかりにも関わらず、協議会にすぐに溶け込んで落ち着いて発表してくれました。

今も同じ子育て世代の農業者として、気さくに話ができる貴重な仲間です。地域を支える農業者として共に頑張りましょう！



津山市農業後継者協議会会員  
古川香織さん